

群馬県公立高校入学者選抜制度の在り方について<報告>の概要

「全日制課程・フレックススクール入学者選抜」について

○ 前期選抜と後期選抜を合わせた1回の選抜（本検査）を実施

- ・ 現行制度の選抜の趣旨を継承しつつ、受検者の優れたところをより多面的に評価
- ・ 一定の期間を設けて追検査、再募集を実施し、受検の機会を保障

<現行制度の主な課題>

- ・ 定員を前期と後期で分けているため、前期選抜で多数の受検者が不合格となっており、心理的負担が大きい
- ・ 受検期間の長期化により、中学校、高校双方で、授業時間が十分に確保しにくいなど、学校生活への影響が大きい
- ・ 前期と後期で受検校を変更する受検者もいて、不本意入学などの一因となっている
- ・ 感染症対応の追検査のため、新たな選抜日程の設定が必要である など



新制度の実施に向けて

- ・ 必要な周知期間を確保、なるべく早期に導入 → 令和6年度入学者選抜(令和3年度中学1年生対象)から実施
- ・ 制度変更から当面の間は、志願先変更期間を複数回設定

その他、入学者選抜に関すること

- 志願理由書の趣旨の明確化と様式の見直し
→ 面接の補助資料として活用、項目の精選や字数削減、コピーの提出可 等(可能なものは令和4年度入学者選抜から)
- 出題範囲の精査 → 検査時期が早まるため、中学校の学習状況に配慮
- 合理的配慮の推進 → ICT活用等による障害のある生徒への対応の充実
- 出願手続き等の省力化 → ICTの活用を検討